

**東** 京商工会議所では、2022年3月30日から4月12日に同所の研修センターが主催した「新入社員ビジネス基礎講座」を受講した受講者を対象に意識調査を実施し、その結果を5月26日に公表しています。

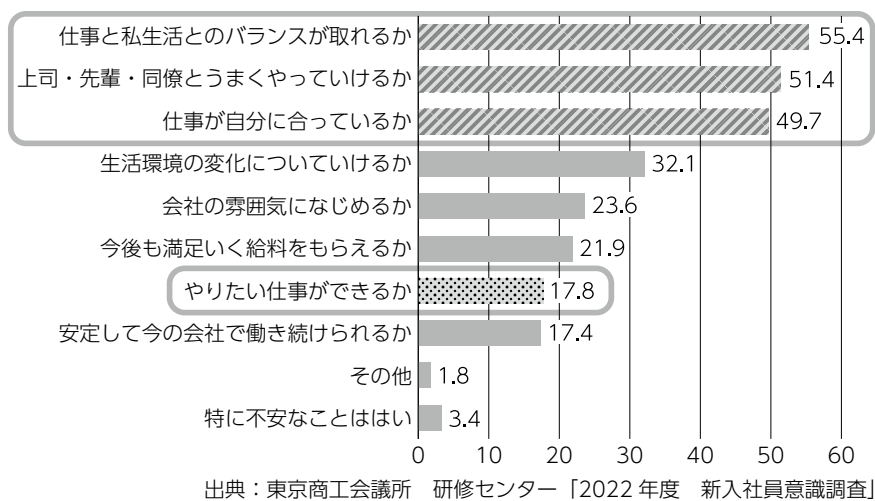
2023年、新たに金融機関に就職された読者の皆さんから見ると、1年先輩に当たる昨年の新入社員の意識になります。

この講座の受講者数は1010名と多数に達し、入社前の最終学歴も、高校・専門学校・短期大学・大学・大学院など多岐にわたっていました。調査の有効回答数は967名となりましたが、調査の質問項目に「社会生活で不安に感じていること」も含まれていたため、この質問項目に着目してみました

やりたい仕事ができるかも若手の不安要素の一つ

多い順から7つ目の不安項目

図表1 社会人生活で不安に感じること (複数回答、回答は3つまで) n=967 [単位：%]



## 1 若手担当者はどんなことに不安を感じているのか

(図表1)。

一覽して分かる通り、「仕事と私生活のバランス」「上司・先輩・同僚との関係」の上位2項目はいずれも過半数を超え、それに続く「仕事が自分に合うのか」もほぼ半数に達しています。よって、今年就職された読者の皆さんがこれらの不安を抱えていても不思議ではないどころか、不安がない方がむしろ少数派の可能性もあります。

には、「やりたい仕事ができるか」も挙げられています。金融機関の仕事は、階段状に手順を踏んで漏れないように実施することが基本になります。個人向けに提供しているローン商品などでも、部店をまたがる多くの行職員が様々な形で商品の提供や管理に関わっています(図表2)。本稿では個別の中身まで踏み込んだ解説は割愛しますが、本部の仕事内容は巻末の連載マンガ「銀行のシゴト」探究記」で紹介しています。「こんな部門ではこんな仕事をやっている」という

イメージを理解してもらえれば幸いです。ファッショニエイブルでランウェイを歩くモデルの背後には、デザイナー、パタンナー、



# 【特別企画】金融機関で働くための仕事の進め方

— やりたい仕事をするために

毎年、多くの方が金融機関に就職します。その一方で、金融機関独自のルールや風土になじめず苦勞している担当者も少なくありません。そこで本特別企画では、これから金融機関で働く、もしくは働き始めたばかりの担当者に、今後自分のやりたい仕事をする(見つける)ためにどんな心構えが必要か、担当者目線に立つて解説します。

地域金融アナリスト&コンサルタント 佐々木 有希子